

施策番号	0101		
施策名	自然環境とくらしを気遣う環境の保全		
概要	優れた自然環境を後世に伝えていくため、自動車の排ガス対策等、生活環境保全に向けた取組、環境問題に対する市民の理解と行動を広げる環境学習を推進する。		
担当局・部室	環境政策局・環境企画部，地球温暖化対策室	共管局・部室	
上位政策	1 環境		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市自動車環境対策計画，京都市地球温暖化対策計画， 京都市環境モデル都市行動計画		

施策の評価

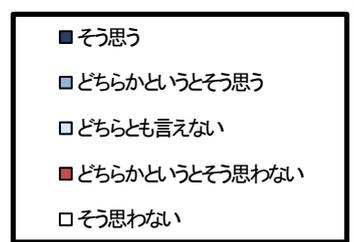
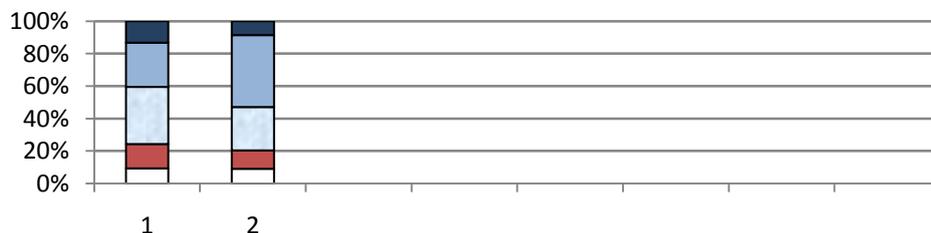
1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1 エコカーの普及台数(台)	-	a	9,483	13,388	10,500	127.5%	a	1.00
2 全京都市立小学校における、こどもエコライフ チャレンジ実施率(%)	-	a	100	100	100	100.0%	a	1.00
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
		a	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価

*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答					有効回答 者数	評価
	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1 京都の子どもたちは、山紫水明の自然環境をかがえの ないものと実感している。	68 13.2%	140 27.2%	181 35.2%	77 15.0%	48 9.3%	514	c
2 「きれいな空気、清らかな川、静かなまち」など、よい 環境が保たれている。	49 9.5%	254 49.4%	153 29.8%	65 12.6%	52 10.1%	573	b
3 -							-
4 -							-
5 -							-
						市民生活実感調査総合評価	b



3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					23 年度	A
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	b		
<p>(重み付けの理由) 環境の保全のためには、自動車の排ガス対策としてエコカーを選択する市民や事業者が増えることが重要である。また環境学習は、環境に優しい行動が根付くことを目的とした長期的な取組であり、その成果はすぐには市民に実感されにくいことから客観指標に重みを置く。</p>							
<p>(原因分析) ・エコカーの普及台数は、国によるエコカー減税やエコカー補助金の実施もあり、目標値を大きく上回った。 ・子どもエコライフチャレンジは、環境モデル都市行動計画に基づき、京都市立小学校全校で実施したため、目標値を達成した。</p>						年度	-

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	(財)京都市環境事業協会運営	42,472	44,533	—	環境政策局
2	「世界一美しいまち・京都」の推進	32,384	33,730	良い	環境政策局
3	KYOTO地球環境の殿堂	13,742	12,149	良い	環境政策局
4	子どもエコライフチャレンジ推進事業	26,306	30,456	かなり良い	環境政策局
5	環境保全資金融資制度	8,721	65,230	かなり悪い	環境政策局
6	次世代自動車普及促進	57,010	39,615	かなり良い	環境政策局
7	身近な自然度調査	13,629	4,435	良い	環境政策局
8	京都市低公害車モデル事業	1,539	2,337	悪い	環境政策局
9	ダイオキシン類対策	28,597	33,017	かなり良い	環境政策局
10	大気汚染対策	220,310	229,726	普通	環境政策局
11	水質汚濁対策	108,179	122,306	良い	環境政策局
12	騒音・振動対策	61,031	66,374	良い	環境政策局
13	公害苦情処理及び公害防止事前相談	118,028	113,942	良い	環境政策局
14	環境施設見学会「ごみ減量エコバスツアー」	8,578	10,460	普通	環境政策局
15					
16					
17					
18					
19					
20					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・今後も市民の皆様や事業者の方々に対して、カーシェアリングの推進や公共交通機関の利用により自動車の利用を控えるとともに、やむをえず利用する場合はエコカーを利用するように普及啓発を行う。
- ・環境学習については、プログラムの見直しやフォローアッププログラムの試験的導入等により、さらに充実した取組を続けていくことで環境に優しい行動が根付くように努める。
- ・以上のことにより、自然環境及び生活環境の保全に努めることで市民生活実感評価の向上を図る。

施策名	0101	自然環境とくらしを気遣う環境の保全
-----	------	-------------------

指標名	エコカーの普及台数(台)
-----	--------------

担当課	環境管理課	連絡先	213-0930
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

EV（電気自動車）、PHV（プラグインハイブリッド自動車）、HV（ハイブリッド自動車）及びCNG（圧縮天然ガス自動車）等の京都市内での普及台数

2 指標の意味

環境の保全のためにエコカーの選択、普及状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：各種エコカーの台数を加算
出典：軽乗用は(社)全国軽自動車協会連合会及び本市納税推進課、それ以外は(財)自動車検査登録情報協会の情報による

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	21年度	22年度		数値	根拠	達成度
数値	9,483	13,388	3,905 台増	10,500	平成32年度の数値目標達成のために当年度達成すべき数値	127.5%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		12万	32年度	11.2%	京都市自動車環境対策計画<2011-2020>

備考	算定に用いるデータの収集時期の関係から、平成22年度値が最新となる。
----	------------------------------------

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：80%以上
b：60%以上～80%未満
c：40%以上～60%未満
d：20%以上～40%未満
e：20%未満

6 基準説明

当該指標については、社会・経済情勢などの影響により、EV・PHVの生産量等が不安定となる場合があり、不確定要素が比較的多いことから、80%以上をa、以下20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

	23	24
-	a	a

指標名	全京都市立小学校における、こどもエコライフチャレンジ実施率(%)
-----	----------------------------------

担当課	地球温暖化対策室	連絡先	222-4555
-----	----------	-----	----------

1 指標の説明

次世代を担う子ども達が地球温暖化問題について自ら考え、体験し、家族と共に「子ども版環境家計簿」に取り組む「こどもエコライフチャレンジ」実施校数の全市立小学校数に対する割合

2 指標の意味

自然を気遣う社会の実現に向けた実践的な環境学習の推進状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：「こどもエコライフチャレンジ」実施校数÷全市立小学校数×100
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	100	100	増減なし	100	全校実施を継続確保する	100.0%

	全国順位	中長期目標			根拠
		数値	目標年次	達成度	
数値		100	32年度	100%	市内全小学校での実施を目標とする。

備考	
----	--

5 評価基準

最新数値の目標値に対する達成度が
a：95%以上
b：75%以上～95%未満
c：55%以上～75%未満
d：35%以上～55%未満
e：35%未満

6 基準説明

若い世代に対する環境教育の充実は、未来の環境保全に大きく寄与する。また、本事業は市内全域で実施するが、統廃合などで事業が見送られた場合を考慮し、95%以上をa、以下を20%刻みで基準を設定した。

7 評価結果

	23	24
-	a	a